

インタビュー

後藤理事長が、打初め者の池坊様、藤本様、湊川様に、万博への思いについてインタビューさせていただきました。



理事長：万博の開幕まで40日あまり、報道なども数多く見るようになってまいりました。まずは、万博の開幕を迎えるにあたって、皆様の率直な思いをお伺いできないでしょうか。

藤本様：本当にいいよ、と考えています。先日も万博会場を視察し歩き回ってきましたけれども、各国のパビリオンがどんどん建ち上がっておりまして、我々がつかっております大屋根リングの上から会場を眺めると、世界が本当にその場所に集まってきているんだと実感し、非常にワクワクしております。

湊川様：今年の夏、万博場所を開催することもあり、日本相撲協会として造幣局の方々と関わることができて本当にありがとうございます。私はこの間まで現役だったのですが、このような減多にできない体験が今日でき、今後この経験を糧にして頑張っていきたいと思っています。

池坊様：大阪関西に誘致するところから始めて、本当に長い準備期間を経ていいよ、ようやく、と本当に嬉しい思いでいます。パビリオンもたくさん出来上がってきましたけれども、会場が出来上がっただけが完成ではなくて、やはりそこから多くの方が来てくださっていろんな体験をし、いろんな思いを紡いでくださることによって大阪・関西万博がますます広がっていくことになっていくと思っていますので、ぜひ皆様方、同じ時を共有していただければ嬉しいなと思います。

理事長：お三方それぞれの思いをお話いただき、ありがとうございます。早速ですが、会場の皆様、壇上に飾られましたお花をご覧いただけますでしょうか。こちら、本日の打初め式開始の直前に、池坊華道会の皆様が生けてくださったものです。華やかで、カラフルで、「いのち輝く」万博のテーマにぴったりのお花を飾っていただき、まさに今日の打初めに花を添えていただけたと感じています。

さて、万博の開幕日である4月13日から、「いけばなの根源 池坊展」が万博会場のギャラリー EASTで開催されると伺っております。池坊副会長、どのような展示あるいはイベントになるのか、意気込みなどについてお話をいただけますでしょうか。

池坊様：まず、今日生けさせていただいたお花なんですけれども、ご覧いただいたら分かるように、もうミャクミャクカラーですね。ミャクミャクの色を花に取り入れまして、本当に命それぞれが輝いている、弾けている、そういう感じを表現いたしました。ちょうど開幕日から8

日間、池坊華道会でもいけばな展をいたします。その万博での花展は、やはり私たちにとっても、とても光栄で減多にない機会ですので、出瓶【編集注：花展に出展すること】の方にお声掛けしましたら皆さん参加したいとおっしゃられ、またボランティアの方もたくさん自発的に来てくださることになりました。池坊の長い伝統を踏まえながらも、万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ですから、伝統文化がどのように変わっていくのか、また新しいテクノロジーとか技術によって、それは変わっていくのかということも、皆様が体験できるような、ちょっと照明も工夫を凝らしたり、素材もサステナブルな一回使って終わりではなくて、循環して使えるような取り組みもしておりますので、長い伝統と今と未来を感じていただけるのではないかと考えております。

理事長：非常に楽しみな企画ですね、ぜひ私も拝見したいなと思います。今、催事のお話がございましたけれども、池坊副会長は、万博催事検討会議の共同座長も務めていらっしゃると思います。魅力あるイベントが多数開催されるのだと思いますが、そういう万博の催事、催し物全体についてのコンセプトなどについてお聞かせいただけますでしょうか。

池坊様：万博会場には、広い大きなところから小規模なところまで、本当に様々なステージがあります。4月13日の開幕日のAdoさん、これは倍率が10倍という非常に人気でしたし、それ以外にも本当にたくさんの色々なジャンルの方がパフォーマンスを披露してくださり、そしてまたそれらが全て無料で楽しんでいただけるということになっています。そういった意味では、本当に幅広い、現代から伝統芸能に至るまで、皆様の関心に合わせて、楽しんでいただけます。それから、予約がないと行けないと思っていらっしゃる方もおられますが、予約がいらないものの、とてもいいパフォーマンスや、ステージもたくさんあります。特定の一つだけというのではなくて、いろんな色が混ざり合って、いろんな世界が見られるという、それぞれが生きて生きと頑張っているんだというものをステージイベントで皆様が披露していただけます。ぜひご関心に合わせて、いのち輝いている様子をご覧いただいて、またご覧いただいた方も、それを見ることでさらにワクワクドキドキ、いのちが輝いてくださるといいのではないかと期待しています。

理事長：続いては、湊川親方にお話を伺いたいと思います。会場の皆さん、まず、ここに飾ってあります大きな優勝カップをご覧いただけま

すでしょうか。ここ大阪で相撲といえば、大相撲3月場所、いわゆる大阪場所だと思うんですけども、造幣局は昭和23年から、この大阪場所の幕内最高優勝力士の方に理事長杯を贈呈させていただいております。実は、そういう非常に長いご縁がございます。そういったこともあって今日、湊川親方に声をお掛けして、ご出席いただきました。そこで湊川親方、ご自身の大阪場所での思い出などについてお話をいただけますでしょうか。

湊川様：私は新十両というお相撲さんが最初に目指すべきところ、十両に上がるとお給料がもらえて付き人がついて、今まで使い走りになられてたのが逆の立場になるのですが、それを決めさせていただいたのが大阪場所、という思い出があります。私は大関までいったのですが、大関に上がったときよりも新十両に上がったときの方がうれしかったですね（笑）。また、大関を決めた場所も大阪場所だったので、感慨深い、いつも何かいいことも悪いことも経験させていただいた大阪場所というイメージです。2023年の1月に優勝して綱取りを迎えたのも大阪だったんですけど、また途中でケガをしてしまって、苦い経験もさせてもらった場所でもあります。やっぱりこの理事長杯というものを、何としても現役のときは欲しい、獲得したいという思いで頑張ってきたんですけど、ケガもあったので獲得することができませんでした。優勝というのはそれぐらい重いもので、今年も3月場所は現役力士、特に横綱になった豊昇龍関とか、新しくスピード出世した大関 大の里関とか、いろんな魅力の力士がたくさんいますので、ぜひそのあたりにも注目してもらえたらと思います。

理事長：今、本当に心のこもったお話を伺って、すごくありがたいなと思いました。できれば、理事長杯を受け取っていただきたかったんですけども。

湊川様：すごく空回りしましたね。私は兵庫県出身で、大阪は準ご当地でもあるので、良いときはよかったんですけど、ダメなときは全然ダメで。大阪場所では結局、幕内では優勝することはできなかったのも、理事長杯が欲しかったなって、いま改めて思いました。

理事長：では、後でちょっとお持ちいただくということで（笑）。ぜひ力士を育てていただけて、その力士に理事長杯を受け取っていただければ、そんなふうに思います。今回の万博では、8月3日に「大相撲万博場所」、それから8月4日には相撲が世界を1つにする

「SUMO EXPO 2025」というイベントが万博会場内のエキスポメッセWASSEで開催されるとのこと。こちらはどのようなイベントなのか、見どころなど、教えていただけますでしょうか。

湊川様：巡業は、力士の稽古を一般公開しながら、本場所さながらの取組も、横綱土俵入りも全部やります。本場所だと、力士が戦うのに集中してるので、なかなかお相撲さんとしやべったりファンの人と触れ合う機会がないんですけど、巡業はぐっと距離が近くなって写真撮影とか、ちょっとした会話など、たくさん楽しめると思います。

理事長：それはいいことを教えていただきました。ところで今日、ミャクミャクが隣に来てくれているんですけども、ミャクミャクの印象などについて教えていただけますでしょうか。どうでしょう、相撲は強そうでしょうか。

湊川様：そうですね。下半身がしっかりしていますし、頭が大きいので、頭で当たってこれたら怖いと思います。

理事長：あの、ミャクミャク、いま褒めていただきましたけども、あんまり調子に乗るとケガをするかもしれませんので気をつけてくださいね（笑）。ところで池坊副会長、こちらには造幣局のマスコットキャラクターで500円玉のコインくん、それから100円玉のさくらちゃんが来てくれています。広報活動にいろいろ活躍してくれてるんですが、何か印象やアドバイスがあれば、お聞かせ願います。

池坊様：ミャクミャクは、ちょっとよく分からないところが魅力だと思うんですけど、対照的にこのさくらちゃんとコインくん、誰が見ても硬貨って分かります。この分かりやすいストレートなところが可愛らしいし、いつも笑顔なのも嬉しいですね。なにかとっても幸せになるような気がします。

理事長：お褒めの言葉をいただきました。2人にはぜひこれからも活躍していただきたいと思っています。

続いて藤本プロデューサーにお話を伺いたいと思います。大屋根リングの設計監修、あるいはパビリオンの配置等々携わられた万博開催の立て役者のお一人だと思います。まず、今回の万博を象徴する大屋根リングですね、苦労話などいろいろあると思いますが、お話しいただけますでしょうか。

藤本様：苦労話ですね、ここではしゃべれない苦労がいろいろありました。何よりもやっぱり世界であれだけの大きな木造建築物をつくるというのは初めてのことなので、その初めてにチャレンジするということの意義と同時に難しさがたくさんありました。おかげさまで先日引き渡しも終わりまして、リングも出来上がっておるわけですけども、やっぱり日本の千年以上の木造の伝統を引き継ぎながら、現在の技術をそこに加えて、そして未来を作ってくところ、さっき池坊さんもおっしゃってましたけ

れども、伝統と今と未来がそこで融合するっていう非常に意義深いものになったんじゃないかと思います。

理事長：先ほど皆様には始動ボタンを押していただきましたこの記念貨幣ですけども、銀貨幣の表面は、大屋根リングから虹色の光が溢れ出すという、そういうデザインになっています。今日、記念貨幣を製造開始しまして、これからたくさんの方の手に渡っていくと思うんですけども、記念貨幣をご覧になって印象などをお聞かせ願えませんか。

藤本様：貨幣っていうのは、ものすごく長い間残り続ける、それこそ100年、200年、1000年残り続ける価値を持ってるんじゃないかなと。我々も今回の万博、会期は半年間ですけども、そこを訪れる特に子供たち、それから若い人たちですね、彼らの記憶に強烈な印象が残ると思うんです。その彼らが50年後、その先の日本の社会、そして世界をつくっていくんじゃないかなと思います。そういう意味では、この先を考える、残り続ける何かそれは人の心かもしれないし、こういう物かもしれないけれどもっていうのを改めて実感させてくださいました。

理事長：確かに、貨幣というのは通常の決済手段だけではなくて、歴史とか文化の1つの切り口といえますか、象徴のようなところがございます。そういった意味でも今いただいた言葉を、我々としてもこれからも心に留めて仕事をしてまいりたいと思います。万博会場は非常に広くて、趣向を凝らした様々な施設があると思うんですけども、会場の魅力ですとか、あと会場全体についてエピソードがありましたら、お聞かせ願えませんか。

藤本様：そうですね、魅力はやっぱり各国、それから、日本国内からも様々な企業のパビリオン、イベント催事、様々なことが起こってるのがやっぱり魅力なのではないかなと。各国のパビリオンは、単なるパビリオン自体の建物とか、そのパビリオンの中の体験だけではなくて、それぞれの国が持っている文化だったり伝統だったり、その国ならではの食べ物だったり、それからそれぞれの国の踊りだったり、音楽だったりってパフォーマンスも行われるんですね。なのでそういう全体を体感する、世界中の様々なことがこの場所にいることで体感できる、そこがやっぱり一番の魅力なんじゃないかなと思います。

理事長：体感ということでしょうか。

藤本様：そうですね、リアルにやっぱり体感できる、その目で見て、感じ取ることができることは、これからの時代もっと大切にそして貴重になってくるんじゃないかなという気がします。

理事長：最後になりますけれども、万博本番を楽しみにしておられる国内、国外の皆様がたくさんおられると思います。最後に皆様から一言ずつメッセージをお願いしたいと思います。



理事長杯と池坊華道会の皆様が生けてくださったお花

池坊様：大阪・関西万博は、世界中の美と英知とテクノロジーが一堂に会した場です。本当に見どころがたくさんありすぎて、なかなか一度では見られないと思うんですね。でもまた何回か来ることによって、その都度感じたことも違うし、見える風景も違うと思いますので、ぜひ何度も足を運んでいただいて、より多層的に楽しんでいただけたらいいんじゃないかなと思っております。また、リングから見た景色がとても美しいです。それも、時間帯によって全然違いますので、これはぜひリングに上って、ご覧いただきたいなと思います。ぜひ皆様方がそれぞれの、ご自分の感性でとらえて、そしてまた何か未来に繋がるヒントを得る場として、活かしてくださるようにと願っております。

湊川様：万博は、いろんな世界のよさを知ることができると感じます。私は日本の国技をちょんまげをつけてやっていた力士だったことを踏まえ、世界の良さを知りながら改めて日本の良さというのを知ってもらえるのではないかなと思っています。池坊さんがさっきおっしゃられたように、1回では回り切れないとは思いますが、何回も行っていたら、改めて日本の良さ、世界の良さを知っていただきたいと思っています。

藤本様：万博は、特に最近は世界情勢が非常に不安定という状況の中で、世界を本当にたくさんの方が、多様な文化が一つに繋がっていく、そんな場所になっています。そこで体験したことは、特に子どもたちそして若い人たちにとって、これからの日本の未来、世界の未来をつくっていく、そんなすごくワクワクする体験になると思います。一生に一度あるかないか、二度目の方もいらっしゃると思いますが、そんな万博になっておりますのでぜひ皆様いらっしゃってください。

理事長：ありがとうございました。今日、お三方からいろんなお話を伺うことができました。本当に楽しみです。万博のイメージを膨らませることができるような、そんなお話だったんじゃないかなと思います。会場の皆様、最後に、池坊副会長、湊川親方、藤本プロデューサー、それからミャクミャク、コインくん、さくらちゃんにも温かい拍手をお願いできますでしょうか。どうもありがとうございました。